

神奈川県歴史教育者協議会 総会・記念講演会

# 私の体験した戦争と抑留

2019年5月26日(日)

どなたでも自由にご参加ください。

講演 松本茂雄さん(シベリア抑留経験者)

コメント 加藤千香子さん(横浜国立大学)

時間 13:00~16:30 ※午前中は総会を行います。

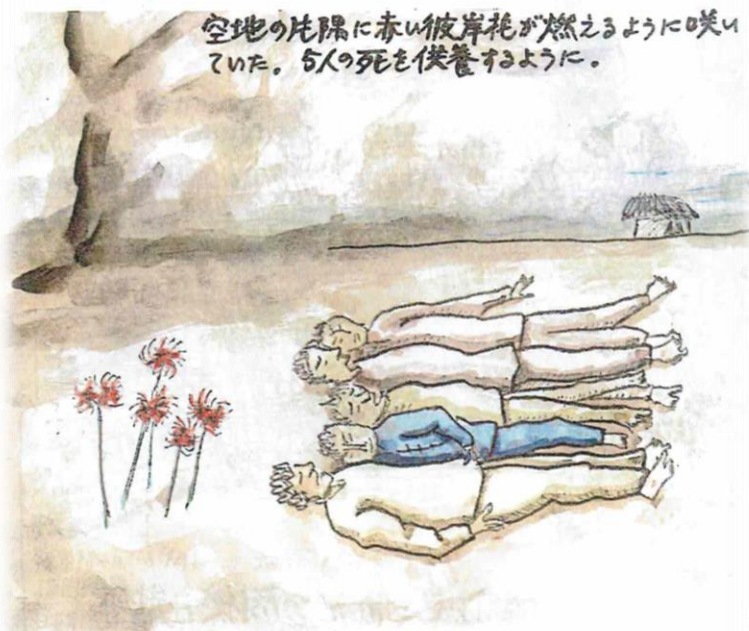
場所 法政大学第二中・高等学校 時計塔2階会議室(T224)

アクセス: JR南武線・東急東横線「武蔵小杉」駅徒歩10~15分

所在地: 川崎市中原区木月大町6-1

## 満人一家の犠牲

我々のために協力してくれた満人だったが、我々の行先をソ軍に教えるのを恐れて古年次兵が全員を殺害した。



空地の片隅に赤い彼岸花が燃えるように咲いていた。5人の死を供養するように。

それを知った軍医は憤慨して、荷物をまとめて独り部隊から奮脱していった。軍務を放棄した軍医は、その後行方不明。ロシア語が堪能な彼は、今も復讐している。

今、私たちは、その体験と向き合うための  
残された時間を過ごしている。

戦後 70 年以上がたち、戦争体験者の語りを聞く機会が大変少なくなっています。そこで、本年度の大会では「シベリア抑留」を経験された、松本茂雄さん（神奈川県在住）をお招きし、ご自身の「戦争」と「抑留」の体験を語っていただくことにしました。

歴史教育の現場で「シベリア抑留」を扱う機会は、多くはありません。しかし、この問題には「戦争と人間」「戦後社会のありかた」などを考えるための、重要な要素がつまっています。

なぜ、人々は抑留されることになったか。

抑留の体験はどのようなものだったのか。

そして、現在において「戦争」と「抑留」の問題は、どういう意味をもっているのか。

これらの問いに、松本さんの体験から迫っていきたいと思います。

あわせて、松本さんの証言を大学の授業に組み込む実践を続けている、加藤千香子さんからは、歴史学からの見地と、ご自身の実践に基づき、発言をしていただきます。

当日の研究会では、今日の歴史教育や、学びの場に、いかに位置づけられるのか、参加者全員で考えたいと思います。本会員以外でも、関心を持たれる、多くの方のご参加を期待しています。



#### 松本茂雄さん 略歴

- 1925 年 福島県福島市生まれ
- 1945 年 陸軍入隊。「満州」虎林迫撃第 13 大隊配属。  
ソ連軍の捕虜。以後約 3 年間シベリアに抑留。
- 1946 年 戦死公報が家族に届く。3 か月後シベリアより捕虜ハガキが家族に届く。
- 1947 年 戦死公報取り消し。
- 1948 年 帰国。早稲田大学政治経済学部復学。
- 1956 年 東京トヨタ勤務。のちにリクルートにも勤務。

『早稲田大学史紀要』49 巻、2018 年 3 月 19 日より一部改  
著書『火焼山』文藝書房、1999 年

#### 加藤千香子さん 略歴

- 1957 年 愛知県生まれ
- 1990 年 一橋大学大学院社会学研究科単位取得退学
- 現在 横浜国立大学教育学部教授

著書『近代日本の国民統合とジェンダー』日本経済評論社、2014 年

